世界大会国際会議・発言：戦争か平和かの歴史的たたかいと核兵器全面禁止への運動

新日本婦人の会中央本部
副会長　西川　香子

大暴走政治　―安倍政権はもうノックアウトだ！―

「日米同盟」を「血の同盟」にする安倍首相の野望のもとで、集団的自衛権行使容認の閣議決定、沖縄への新基地建設の強行など、「海外で戦争する国」への大暴走が、激しさをましています。

新日本婦人の会は、核兵器全面禁止を求める運動と、集団的自衛権行使容認許さぬたたかいを重ね、「安倍政権が続く限り、女性・国民は不幸になる！　一日も早くノックアウト！」と、各地で草の根から大闘争を展開しています。街頭宣伝では、どこでも「戦争はぜったいダメ」「わが子を戦場に送らない」「こんな決め方おかしい」とかけよって署名、とくに女性や若者たちの反響が大きく、飛び入り参加も各地で生まれています。

そのもとで、憲法関係の署名は 60 万を超え、核兵器全面禁止署名は、まもなく 100 万人を突破します。8 月 6 日には、新チラシ（「集団的自衛権はダメ！」「核兵器全面禁止」「『戦争する国』づくりが漫画で丸わかり」入り）が完成し、全国で 60 万部の活用が始まります。

新婦人の草の根からの大闘争！

「戦争する国」づくりをゆるさないたたかいといっしょに、核兵器全面禁止をもとめる行動に勢いがつき、いま、草の根から、多彩に、行動がひろがっています。

青森県八戸市では、早朝 6 時半からの朝市で連続行動をおこない、600 人分を超える国際署名を集め、たまたま視察で訪れていた自民党国会議員も「こんなとこにも新婦人が！」と快く署名。岐阜では市内 110 カ所のお寺や教会へ手紙と署名を送ると、翌日から住職らの署名が返ってきています。東京では“フラッシュモブ的宣伝行動”として、山手線・中央線の 11 の駅前で該当する支部がいっせいに署名行動をおこない、プラカードを手に、つぎつぎ電車に乗り込み、移動し、新宿駅で大合流する行動に 200 人が参加。「じっとはしていられない」と初めて参加した女性たちが、マイクを握り、対話をひろげ、署名を集め、新婦人に入会した人もいます。

原爆展もひろがり、この 2 年間で 800 カ所になりました。熊本・人吉球磨では、自治体に申し入れ、4 万人が訪れるお祭り会場での原爆展を実現。しかし、展示をおこなうテントへ行くと、隣はなんとイージス艦のパネルを掲げ、子どもたちに自衛隊の制服を着せるという海上自衛隊のブース。この事態に「子どもたちを戦場へ送らない」と気持ちが入り、20 人を超える会員や支援者が駆けつけ、中・高生に積極的に声をかけ、被爆の実相や国際政治の勢いを伝え、466 人分の署名を集めました。

“スイッチ”入った若い世代と決意

そして、この間の最大の特徴は、若い世代の決意、行動です。極右的な安倍首相の異常なまでの暴走に、「将来、わが子が銃をもち、人を殺す日がくるのか…」と“戦争”がリアルに目の前の課題として突きつけられました。子どもと一緒に宣伝デビューなどもひろがり、各地で若手弁護士を講師に憲法や集団的自衛権を学ぶ「憲法カフェ」がひらかれています。感想の一部を紹介します。

「無知ほど、無防備で怖いものはない。いまこそ意見を持つことが大事」「『死んでもいい命がある』と思っている政治家が憲法を変えようとしている！絶対にダメ」「今の日本は戦後じゃなく戦前。いろんな人と手をつなぎたい」「もう空気を読まない！」「戦争は絶対反対！」

彼女たちが、初めて、自分の言葉で語り、行動する一歩を仲間といっしょに、いま踏み出しています。今年の世界大会には、地域の先輩たちの力強い後押しを受け、子どもたちともに若い世代が多数、決意をもって参加します。それは、戦争する国へと暴走する日本を、自分たちの力で変えるため。そして、

被爆の実相を自らの目で学び、世界の行動する仲間たちから運動を学ぶためにです。来年の NPT 再検討会議の NY 行動には、この若い世代の女性たちを多数派遣します。

新婦人は、被爆体験をもち、憲法九条をもつ日本で、核戦争の危機から命を守ること、憲法改悪に反対し、軍国主義復活を阻止することを目的に掲げ、52 年前に創立された女性団体です。いま、この願いと運動のバトンを引き継ぐときにきています。核兵器の全面禁止、そして安倍内閣打倒をかかげ、一人ひとりの思いと決意を大切に、草の根からの行動を広げます。